

# インフォメーション・コーナー

## 会 告

○2023年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集（追加募集）申請締切 9月29日	76
○農業農村工学会 若手交流の会 in 愛媛 参加者募集！ 8月30日開催	77
○農業農村工学サマーセミナー 2023 参加者募集！（第3報）8月31日～9月2日開催	77
○2023年度 修士課程2年生などの皆さん 博士課程で取り組む研究課題を募集しています（第2期） 申請締切 9月30日	78
○お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付	79
○2024年度農業農村工学会賞候補の推薦 締切 10月31日	80
○技術者継続教育機構業務運営要領等の一部改正	80
○CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載	81
○技術提案書の評価基準で技術士CPDが評価されるようになりました	81
○学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集!!	81
○改訂6版 農業農村工学標準用語事典PDF版およびWeb版の閲覧申込み案内	81
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	82
○2024年の学会誌表紙写真の募集 夏季締切 9月30日	83
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2022年7月から2024年6月までの編集体制と編集事務局	84
○令和5年度東北支部総会・第64回東北支部研究発表会ならびに第54回東北支部研修会・第43回地方講習会の 開催（第1報）  11月9, 10日開催	85
○第78回中国四国支部講演会ならびに第47回地方講習会の開催（第2報）  講演申込締切 8月18日	85
○令和5年度九州沖縄支部大会（第104回講演会・講習会・シンポジウム・現地見学会）の開催（第2報） 	87
参加・講演申込締切 8月31日	87
○令和5年度応用水理研究部会現地見学会の開催  9月1日開催	89
○2023年度土壌物理学会大会の開催 ポスター発表・企業展示申込締切 9月18日	89
○第66回粘土科学討論会の開催 9月12, 13日開催	90
○第15回「梶木賞」論文の募集 応募締切 10月27日	90
○第26回（2024年）日本水大賞の募集 応募締切 10月31日	90
農業農村工学会論文集 内容紹介	92
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧 	93
学会記事	94

### 第91巻第9号予定

展望：農地整備のロジックモデルについて：萩野憲一

小特集：農地の利用について考える

報文：「水田活用の直接支払交付金」の見直しが農地利用に与える影響：小川真如

報文：荒廃農地の積極的な林地化の実態と今後の展開：森本英嗣ほか

報文：臨海集落の農地利用の特徴：中村百花ほか

報文：北海道石狩平野の水田利用の実態と課題：横地 稜ほか

報文：一関地区における流域全体の持続可能な農地の配置と利用：倉田 進ほか

報文：他出者による農地管理の現状と地域の保全方針：谷 彩花ほか

報文：水田生産性と生き物配慮を両立する基盤整備に関する一考察：谷口智之ほか

報文：中山間地域における農地荒廃化とは場整備による農地の保全：芦田敏文ほか

報文：農業地域の土地利用状況からみた遊水地整備の可能性：宮崎旺也ほか

報文：農地利用政策と地球環境問題：今日的な政策革新の必要性：荘林幹太郎

### 技術レポート

北海道支部：北海道における地球温暖化対策検討部会の取組み：星野宏治ほか

東北支部：岩手県の流域治水の取組み：藤川直人

関東支部：傾斜地における樹園地の圃場整備：今村 亮

京都支部：排水機場における騒音振動対策の検討：嵯峨直樹ほか

中国四国支部：ため池の防災・減災対策に向けた管理支援：北島洋一

九州沖縄支部：蜷木地区における畑地化推進の取組みと効果：横田喜念

## 農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。なお、新型コロナウイルス感染症防止対策等により、ライブ配信での口頭発表が行われない場合は、認定プログラムの対象にならないこととございます。詳しくは主催先の各支部または各研究部会にお問い合わせください。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2023年8月 29日～9月1日	大会運営委員会	2023年度(第72回)農業農村 工学会大会講演会 Ⓟ	—	松山市	90巻12号, 91 巻1, 3, 5号
2023年8月 31日～9月2日	農業農村工学サマーセ ミナー2023実行委員 会	農業農村工学サマーセミナー2023	—	松山市 Web形態	91巻6, 7, 8号
2023年9月1日	応用水理研究部会	令和5年度現地見学会 Ⓟ	—	愛媛県	91巻8号
2023年10月 12, 13日	中国四国支部	第78回講演会・第47回地方講 習会 Ⓟ	—	広島市	91巻7, 8号
2023年10月 19, 20日	畑地整備研究部会	第53回畑地かんがい研究集会 Ⓟ	水田の畑地化・汎用化と装置 としての水田機能の適応	青森市	91巻7号
2023年10月 26, 27日	九州沖縄支部	令和5年度(第104回)支部大会 Ⓟ	—	那覇市	91巻4, 8号
2023年11月 9, 10日	東北支部	令和5年度総会・第64回研究 発表会・第54回研修会・第43 回地方講習会 Ⓟ	—	盛岡市	91巻8号
2023年11月 28, 29日	京都支部	第80回研究発表会 Ⓟ	—	津市	91巻4, 6号

### 2023年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集(追加募集)

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、大型科研究費(SまたはA)やJST、各省庁のファンディング等の比較的大きな規模の競争的資金の獲得を目指す研究グループに対して助成を行います。助成額は、50万円(1件)です。

2023年度の申請締切は2023年9月29日(金)です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式(末尾参照)で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あてにお申し込みください。試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

#### 「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

- 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「戦略的研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。
- 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容(申請の意義、準備の状況、将来の展望など)を検討して、助成するグループを決定する。なお、この決定内容は学会長に報告する。
- 助成：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」を

助成する。ただし、その助成は原則として1年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先する。

- 助成対象：申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。
  - 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。
  - 「研究申請書作成グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員(本学会員以外も可)は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。
  - 代表者は論文集またはPAWE誌の購読者(援助決定後の購読も可)であること。
- 活動報告：助成金を受領した「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。また、得られた成果を論文集またはPAWE誌に積極的に投稿すること。
- その他：申告書の内容について、研究委員会が審議した内容を採否通知に同封します。なお、助成金は決定次

第早急に送金します。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：2023年9月29日（金）

申込先：研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あて

E-mail：new-suido@jsidre.or.jp

必要記載事項：

- (1) WG名（または部会名） (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属 (4) 研究テーマ名（仮）
- (5) 研究の目的と内容（500字程度）
- (6) 研究資金申請応募先（予定）

農業農村工学会 若手交流の会 in 愛媛 参加者募集！

若手交流の会（若手会）は、農業農村工学を学ぶ学生、若手研究者、若手社会人の交流を目的とした学生主催の懇親会です。2019年度以来の開催となります！ 普段なかなか会わない他大学の学生、社会人とお話ししたり、お酒を飲んだりして交流してみませんか？ 多くの皆様のご参加をお待ちしております！ 参加申込みは、以下の内容をご確認ください。

1. 主 催

大北 亮（愛媛大学大学院）

2. 日 時

2023年8月30日（水）19：00～（受付18：30～）（仮）

3. 対 象

学部学生、大学院生、若手社会人、若手研究者

※学会のネームプレートをご持参ください

4. 開催地

愛媛大学城北キャンパス大学会館（食堂2階リーセス）

5. 参加費 3,500円（仮）

6. 参加申込み

参加申込みは、以下の①～⑤の内容を明記の上で下記のメールアドレスへ送信いただくか、下記の二次元バーコードから専用の申込みフォームに必要事項を記入してください。

①氏名（漢字・フリガナ）

②所属（大学・学部・学科、社会人は企業・機関名など）

③学年（学部生：B 修士課程：M 博士課程：D）

④連絡先（E-mail）

⑤当日の連絡先（電話番号）

7. お問い合わせ

E-mail：n.n.wakatekai2023@gmail.com

担当：愛媛大学大学院 大北 亮



農業農村工学サマーセミナー 2023 参加者募集！（第3報）

農業農村工学サマーセミナーは、農業農村工学を学ぶ学生や若手社会人・研究者の交流の活性化を目的とした学生主催のセミナー企画です。今年度も農業農村工学サマーセミナー 2023の開催を企画しています。内容や参加費が決まり次第、サマーセミナーのホームページや本誌等でお伝えします。他大学の学生や他機関の社会人・研究者と農業農村工学に関する議論をしてみたい方、交流したい方、まだ研究室に所属していないけれども農業農村工学について知識を深めたい学部学生など、どなたでも大歓迎です。たくさんの方のご参加をお待ちしております。

1. 主 催 農業農村工学サマーセミナー 2023 実行委員会

2. 開催方式 現地、オンラインのハイブリッド

3. 日 時 現地：2023年8月31日（木）～9月2日（土）

オンライン：2023年8月31日（木）～9月1日（金）

開始、終了時刻は現時点で未定

（決まり次第、サマーセミナーホームページに掲載します）

4. 対 象 学部学生、大学院生、若手社会人、若手研究者

5. 参加費 未定

6. 企画内容

メインテーマ：“いいとこ知ってこ！「愛媛のNN」～四国特有の農業農村工学を学ぶ～”

具体的な企画としては、今のところ、農業農村工学に関するディスカッションや、愛媛近辺の農業水利施設の見学や観光等を予定しています。

【過去の活動内容例】

2022年度（ハイブリッド開催）：グループディスカッション2題（「専門分野以外のNN分野を知ろう」、「サマーセミナーのロゴを作ろう」）、親睦会、現地研修会（金沢市）など

2021年度（オンライン開催）：グループディスカッション2題（「災害・防災に対して農業農村工学ができること」、「サマーセミナーで動画を作るとしたら？」）、レクリエーションなど

7. お問い合わせ

E-mail：n.n.summer.seminar@gmail.com

URL：https://sites.google.com/view/

n-n-summer-seminar



## 2023年度 修士課程2年生などの皆さん 博士課程で取り組む研究課題を募集しています (第2期)

農業農村工学会では、2024年度支給開始〔2023年度修士課程2年〕学生などを対象に、「農業農村整備技術に貢献する博士課程学生による調査研究活動への支援事業」についての研究課題を募集します。

以下の募集要領に従って、ふるってご応募ください。応募締切りは、2023年9月30日(土)17:00までです。

### 募集要領

#### 1. 趣旨

農業農村工学会(以下、「学会」という)は、「農業農村工学の進歩及び農業農村工学に関わる研究者・技術者の資質向上を図り、学術・技術の振興と社会の発展に寄与する。」ことを目的としています。農業農村工学に関する重要な方針として、土地改良長期計画(2021年3月23日閣議決定)があります。それを技術面から支えるのが「農業農村整備に関する技術開発計画(2021年11月公表, <https://www.maff.go.jp/j/nousin/gijutukeikaku.html>)」であり、そこに示された「あるべき農業・農村の姿」の実現に資する重要課題に速やかに取り組むことが求められています。

一方で、大学改革の推進や少子化の影響により、これらの課題に取り組む若手研究者が不足し、人材の確保と育成が学会の喫緊の課題となっています。

そのため、博士後期課程に進学し、研究に取り組もうとしている学生などの研究活動を支援するため、学会では、(一財)日本水士総合研究所(以下、「水士総研」という)(<http://www.jiid.or.jp>)の公益目的事業である「農業農村整備事業に関する調査研究」からの委託などを活用して、「農業農村整備技術に貢献する博士課程学生による調査研究活動への支援事業」(以下、「支援事業」という)を創設し、博士後期課程学生への研究課題に対する支援を行います。これにより、農業農村整備技術の向上を図るとともに、関連する人材の確保と育成を目指します。

#### 2. 対象者、募集人員および取り組む研究課題

【2024年度支給開始対象者】

2023年度現在、修士課程2年(博士前期課程2年)の学生もしくは、その既修了者で2024年度に博士後期課程(一般)[社会人コース等を除く]に入学見込みの40歳未満(2024年度末時点)の本学会の学生会員または正会員を対象とします。なお、募集時点で学会の会員でない申請者については、採用後に学生会員に入会することを要件とします。

今回(2023年度第2期)募集する研究課題数は、若干数です。なお、現在博士後期課程に在籍している学生や社会人の博士後期課程学生は、支援事業の対象としません。また、日本学術振興会の特別研究員制度の採用者も対象としません(併願は可能ですが、重複受給は不可)。

他の奨学金や助成制度による支援を受ける学生の応募は可能です。ただし、支援事業に研究課題が採用された場合に、現在受給している他の支援金を引き続き受け取ることが可能かどうかを、必ず確認してください。

採用後に取り組む研究課題は、2021年3月23日に閣議決定された「新たな土地改良長期計画」を技術面から支える「農業農村整備に関する技術開発計画」に資する研究課題とします。考えている研究課題と技術開発計画との適合性など確認したいことがありましたら、気軽に事務局にお問い合わせください。

- (1) 土地改良長期計画の策定について: 農林水産省(<https://www.maff.go.jp>)
- (2) 農業農村整備に関する技術開発計画(2022/11/26公表)  
<https://www.maff.go.jp/j/nousin/gijutukeikaku.html>

#### 3. 支援対象学生への支援体制

支援事業に採用後、研究課題に取り組む場合、研究課題に適した国営事業等の研究フィールドの提供、学会が行っている学術基金や関係機関による調査研究費の支援など多角的な研究課題推進のための支援体制を組みます。さらに就職においては、学会が構築する「博士人材マッチングシステム」の活用が可能です(学会ホームページ <http://www.jsidre.or.jp/career-path/> を参照)。

#### 4. 支援事業の規模

支援事業の規模は、1研究課題当たり年間100万円とします。農業農村整備に関する技術開発計画に資する研究活動に使用するほか、研究活動を円滑に行う上で必要不可欠な経費の支出についても認めます。支援期間は、博士後期課程の3年間とします。なお、途中で事業の趣旨に沿わない研究課題に変更した場合は、支援を中止します。また、留年した場合でも支援期間は延長しません。留学や休学等で当該課程での活動を休止した場合は、支援を中断します。

#### 5. 研究支援金の支払先

学会から学生個人の預金口座に年度当初までに振り込みます。

#### 6. 選考方法

##### (1) 書類審査

申請に必要な書類は次の3種類です。

- ①進学しようとする博士後期課程、支援希望動機と取り組む研究課題名とその内容を記載した申請書
- ②指導教員(応募時点)の推薦書
- ③これまでの業績リスト

##### (2) 面接審査

上記(1)書類審査の結果により面接を行います。

##### (3) 研究課題の決定

学会に設置した「博士人材育成研究小委員会」において、

書類審査および面接審査の結果を総合的に勘案して研究課題を決定します。

### 7. 研究課題を行う学生の義務

研究課題を行う学生は、所定の様式（A4、2ページ、最終年度は、4ページ）に沿って、年度末に指導教員の了解を得た年間研究活動内容を示す報告書を提出します。また、水土総研におけるアソシエイト・アドバイザーとなり、要請に基づき協力活動を行います。

アソシエイト・アドバイザーの協力活動は、毎年水土総研が開催する意見交換会での研究活動内容の報告、調査研究発表会での研究成果の発表と意見交換、「大学生の農業農村体験研修会」における必要に応じての参加、協力などです。

なお、これらの出席に必要な旅費等は、水土総研から別途支給します。

### 8. 研究課題の募集期間および選考時期

募集期間 2023年8月1日（火）9:00～9月30日（土）  
17:00（厳守）

面接 2023年12月上旬

内定 2023年12月末まで

### 9. 博士課程（後期）修了後の就職先と返還の扱い

学会が構築する「博士人材マッチングシステム」に登録した場合、農業農村整備技術分野の求人情報を提供します。ただし、これは就職を制限するものではなく、就職先の業種や専門性に

よって支援事業の返還を求めることはしません。

### 10. 申請の方法

学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/career-path/>）より、申請様式1～3（Wordファイル）をダウンロードして必要事項を記入の上、E-mailの添付ファイル（Wordファイル）にて「8. 研究課題の募集期間および選考時期」に示す募集期間内に下記提出先に提出してください（郵送は受付しません）。

各添付ファイル名には、ご本人の氏名を付記し、統一したパスワードをお願いします。パスワードは、別途、メールにてお知らせください。

（\*申請書類に含まれる個人情報については、学会の「農業農村工学会の個人情報の保護に関する基本方針」に基づき厳重に管理し、本事業の業務遂行のみに利用します。学会ホームページ：<http://www.jsidre.or.jp> 参照）

提出先：農業農村工学会博士人材支援事業担当あて

E-mail：new-suido@jsidre.or.jp

### 11. 問合せ先

（公社）農業農村工学会

事務局 中 達雄

調査研究部 中村充朗

TEL：03-3436-3418

E-mail：new-suido@jsidre.or.jp

## お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付

新型コロナウイルスの対策として学会で2023年度の学生会費を免除することが決定しました。また、大学改革の第二幕を迎えている現在、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途を辿っており、研究費の削減から人材の育成も困難になっています。そのため、産官学の連携協力の強化を進めているところですが、一環として、学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。使用目的を明確化していますので、ほかに使用することはなく、税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは、以下のとおりです。

(1) 学会の事業計画に沿った調査・研究（学会に一任）

（※特に記載がなければ（1）として扱います。）

(2) 条件を付した寄付

選定条件【 】

① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進

・気候変動、国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進

② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進

・頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮に資する技術開発

③ ①、②以外の分野および学際的の分野に関する調査・研究の推進

・上記①、②以外、たとえばICTなど新たに取り組んでほしい技術

④ 国際学術会議への出席等の国際交流の推進

⑤ 若手研究者の育成の推進

⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進

・青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理

・世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など

詳しくは学会ホームページ（[http://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin\\_kifuno-onegai/](http://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onegai/)）をご覧ください。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金 優遇措置（一般損金算入限度額+特別損金算入限度額）が受け  
公益法人である学会に法人が寄付すると法人税に対して税制 られます。

2024 年度農業農村工学会賞候補の推薦

2024 年度の農業農村工学会賞（上野賞、沢田賞を除く）を、 締切は、2023 年 10 月末日です。推薦書様式および授賞規程  
募集要項に則って、推薦書によりご推薦ください。 は学会ホームページをご参照ください。

2024 年度 農業農村工学会賞 募集要項

Table with columns: 賞の種類, 学術賞, 奨励賞 (研究奨励賞, 技術奨励賞), 優秀賞 (優秀論文賞, 優秀報文賞, 優秀技術賞, 優秀技術リポート賞), 賞の趣旨, 賞の対象期間, 賞の対象業績, 受賞候補者, 推薦の方法

Table with columns: 賞の種類, 著作賞, 教育賞, 環境賞, 歴史・文化賞, 地域貢献賞, 国際貢献賞, メディア賞, 功労賞, 賞の趣旨, 賞の対象期間, 賞の対象業績, 受賞候補者, 推薦の方法, 選考の方法, 賞の決定, 表彰, 推薦締切, 推薦書の提出先

技術者継続教育機構業務運営要領等の一部改正

農業農村工学会技術者継続教育機構では、CPD 記録の不正な申請行為等を抑止するため業務運営要領等の一部改正し、2023 年 4 月 1 日から施行いたしました。

1. 改正の理由

技術者継続教育機構では、技術者は倫理観を備えているとの

前提でルールを構築していたため、現行規程の下では登録の抹消以外に不正行為に対応する内容を定めていませんでした。しかしながら、CPD 取得証明の持つ社会的意義の重大化に伴い、CPD 制度の運営機関の責任として不正行為を抑止する仕組みが必要であることから、「技術者継続教育機構業務運営要領」

および「技術者継続教育機構業務運営細則」に不正行為の定義を明示しそれらを行った登録者に課すペナルティを定めることにより、不正行為の抑止を図るとともに発生した不正行為に迅速に対処することとしました。

## 2. 改正の範囲

- (1) 技術者継続教育機構業務運営要領の一部改正
- (2) 技術者継続教育機構業務運営細則の一部改正

3. 施行日 2023年4月1日

## 4. ガイドラインの制定

新たに定められた制限事項はありません。不正行為の範囲を明確にするため「登録者の不正行為に関する判定とペナルティのガイドライン」を定めました。また、ガイドブックなどにペナルティの対象となる事案を例示することで、登録者の理解を深めます。

詳細は技術者継続教育機構ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/cpd/>) をご参照ください。

### CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載

農業農村工学会技術者継続教育機構では、農業農村工学会員でもある CPD 個人登録者が在宅のまま CPD 単位が取得できることを目的に「CPD 通信教育」を実施しています。

2021年9月より、技術者継続教育機構のホームページにそ

の時点で解答可能な「通信教育問題」と解答期限を過ぎた「解答」を掲載しています。学会誌がお手元に届くまでの間はホームページ上で通信教育問題をご確認くださいようお願いいたします。

### 技術提案書の評価基準で技術士 CPD が評価されるようになりました

農林水産省では、建設コンサルタント等の選定・特定事務手続き上の細部運用を改正（令和5年4月3日付）し、予定管理技術者の業務執行技術力の評価項目で、農業農村工学会技術者継続教育機構において取得した CPD により「技術士（CPD 認定）」に認定されている場合に、評価点1点が加算されるこ

ととなりました。

「技術士（CPD 認定）」の認定要件については、日本技術士会ホームページ ([https://www.engineer.or.jp/c\\_topics/008/008035.html](https://www.engineer.or.jp/c_topics/008/008035.html)) をご確認ください。

### 学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

#### 1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

#### 2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

#### 3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

#### 4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌8号掲載の問題は9月末日が解答期限）

#### 5. 取得できる CPD 単位

10問正解で2cpdを、7～9問正解で1.5cpdを自動登録（正解数6問以下の場合は CPD 単位の付与はされません）

#### 6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

### 改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧申込み案内

改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧希望の皆様へ

改訂6版 農業農村工学標準用語事典は、2019年8月27日に発行し好評を得ていますが、下記に該当する冊子購入者の中

で希望される方には、学会ホームページ上 (<http://www.jsidre.or.jp/nnj/202101/yougojiten-web.html>) で閲覧サービスを行っています。該当する閲覧希望の方は、下記にしたがい閲覧の手続きをお願い申し上げます。

- (1) 本用語事典の学会 Web 上での開示については、①正会員でかつ個人で購入した方、および②学生会員での購入者（大学等での先生の紹介によるグループ購入者も含む）の中で希望される方へサービスを提供します。
- (2) 上記の条件を満たす方で閲覧を希望される方は、「改訂6版用語事典 Web 上閲覧希望」とメール件名に明記の上、氏名、会員番号および購入年月を付記して（学生会員でグループ購入された方は、紹介の先生の氏名も含む）、下記 E-mail 宛にお申し込みください。

suido@jsidre.or.jp

- (3) 上記メールを受信および確認後、閲覧の手順およびパスワードを返信メールにてご連絡申し上げます。
- (4) 学会ホームページ上で閲覧が可能なものは、改訂6版農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版が付記されたコンテンツになります。なお、Web 版とは、改訂5版から改訂6版の編集において、時代や科学技術の変化にともない改訂6版から削除した用語の中から現在においても参考になる用語を取録したものです。

## 「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

### 1. 学会誌小特集の要旨の募集とその報文原稿の執筆

学会誌は毎号テーマを設定した報文小特集を基本に、企画・編集を行っています。本小特集に投稿を希望される会員の皆様には、先に、下記に示す各号の趣旨に沿った報文要旨（A4判、1,500字程度、様式自由）を要旨締切り日までに提出していただきます。

その後、企画・編集委員会において提出された要旨の内容を

検討し、小特集報文を提出していただく連絡を要旨提出された方に行います。その報文原稿の締切り期日は、おおむね本文原稿提出連絡日の約1カ月後です。本文原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守をお願いいたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがあります。

### 学会誌第91、92巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判1,500字程度)
第91巻第9号 農地の利用について考える（仮）	終了
10号 技術者のスキルアップへの取組み（仮）	終了
11号 農業水利施設の管理、保全、更新に係る技術的課題と課題解決への取組み（仮）	終了
12号 —	公募なし
第92巻第1号 —	公募なし
2号 防災重点農業用ため池の整備における現状と課題の解決方策（仮）	8月10日
3号 —	公募なし
4号 農業農村工学が主導する持続可能な開発目標 SDGs（仮）	10月10日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。

送付先（要旨および本文原稿など）

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

※提出は、E-mailの添付ファイルにてお願い申し上げます。

### 第92巻第2号「防災重点農業用ため池の整備における現状と課題の解決方策」（仮）

全国には、「防災重点農業用ため池に係る防災工事等の推進に関する特別措置法（令和2年10月施行）」（以下、「ため池工事特措法」という）に基づき都道府県知事が指定した防災重点農業用ため池が、約5万4千カ所存在（令和3年7月末時点）しており、防災工事等を令和12年度までに完了することを目指し、劣化状況の調査や防災工事が進められています。また、防災工事等の推進に当たっては、ため池工事特措法で定める「防災重点農業用ため池に係る防災工事等基本指針」において、農業用ため池が有する生物の多様性の確保をはじめとする自然環境の保全等の多面的な機能にも配慮することが重要と定められており、環境との調和に配慮した事業が求められています。

したがって、農業農村工学分野においても、限られた期間の中で膨大なため池の整備について、優先度の高い農業用ため池の選定、堤体や洪水吐等の劣化状況調査等、事前の環境調査、環境配慮対策をどう考えていくのかが課題といえます。

ため池特措法の施行から2年以上が経過した現状において、多数の農業用ため池の調査および防災工事を短期間で実施することが求められていること、営農者の減少により実質的に取水源として使用されていないため池の取扱い、また、利用実態のないまま放置されている小規模ため池であっても、防災上の視点にとどまらず、希少種の生息状況の調査や生物多様性保全に着目した整備が必要等の多くの課題が指摘されています。

そこで、本小特集では、地方公共団体が実施する多数の防災重点農業用ため池を対象とした防災工事等の計画手法の知見として、①多数のため池を対象とした、ため池の優位付けや対策工法の新技術の事例、②農業用水としての利用実態がないため

池の廃止工事や廃止工事を行わず残置した際の関係者間の調整事例、③ため池の防災・廃止工事を計画する上で、事業計画段階での環境調査と環境配慮方策の考え方、その工事中と工事完了後の調査事例等、幅広く報文を募集します。

## 第 92 巻第 4 号「農業農村工学が主導する持続可能な開発目標 SDGs」(仮)

農業農村工学は、農業の生産性向上と農村の生活環境の改善、加えて、地域全体の持続的発展に貢献することを目的として、循環を基調とした社会を構築し、水・土などの地域資源について、人と自然の調和、環境への配慮を重視して合理的に管理する科学技術としてさまざまな取り組みを行ってきました。そのため、従来から人と自然の調和に気を配りつつ、地域の持続的な発展に寄与してきた農業農村工学は、今、地球規模で目標とされる「持続可能な開発目標 SDGs」を最も体現しやすい領域の一つであると考えられます。

農業農村工学における SDGs に関わりの深いテーマとして、地域資源循環やバイオマスの利活用が挙げられます。令和 4 年 9 月に閣議決定された新たな「バイオマス活用推進基本計画」は、みどりの食料システム戦略に示された生産力の向上と持続性の両立を推進し、地域資源の最大限の活用を図ることを目指しています。たとえば、もみ殻を暗渠の疎水材として利用する

ことは、農地の機能向上とその有効利用とともに、光合成産物—大気から固定した二酸化炭素—の地下埋設の効果も有しています。

2015 年に採択された「2030 年までに達成を目指す 17 の目標」のそれぞれは、農業農村工学において担うことができる要素を含んでいます。そのため、さまざまな取り組みの中には、SDGs を意識せずに取り組んでいるものが、実は SDGs につながる有用な取り組みであるというケースもあると思われます。また、最近の社会情勢を踏まえた食料・エネルギー安全保障への関心の強まりとも連動し、SDGs の達成に貢献する関連技術や研究への期待もますます高まっています。これらのことから小特集テーマ「農業農村工学が主導する持続可能な開発目標 SDGs」を企画しました。SDGs への貢献や、農業農村工学と SDGs を結ぶ新たな視点などの投稿を広く会員からお待ちします。

### 2. 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿報文およびその他の投稿区分の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/journal/>) に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」、『農業農村工学会誌』原稿執筆の手引き」

を熟読の上、小特集と同じく農業農村工学会誌企画・編集委員会あてに、ご投稿ください。

ご投稿に当たっては、投稿票・内容紹介・本文(テンプレート)の各ファイル(Word)を上記の学会ホームページからダウンロードし、原稿の作成にご使用ください。

## 2024 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2024 年発行の学会誌も引き続いて学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

### 趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業(水利)施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠(造形美、用の美、融合の美)とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

### 記

#### 1. テーマ

「農業(水利)施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：現代の最新技術と苦労が垣間見える造形美・用の美など」

#### 2. 対象巻号 学会誌第 92 巻(2024 年第 1~12 号)

#### 3. 写真などの種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず四つ切りを含む A4 以上 B4 以下のサイズにプリントしたものとします。プリントは「写真用紙—光沢紙」を使用してください。四つ切りワイドも含みます。なお、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm、B4 は 257×364 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。データを送信する場合は一点につき 20 MB 以下とし、これを超えるものは CD または DVD にて送ってください。形式は JPEG のみに限定します。

## 4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

## 5. 締切 夏季 2023年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したのものに限ります。

## 6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

## 7. 結果発表

学会誌第92巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は2024年度大会講演会会場でパネル展示します。

## 8. 被写体の説明文または「Cover History（表紙写真由来）」の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者は、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」にご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料（1点につき1万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

## 9. 使用権・出版権

採用作品の使用権および出版権は（公社）農業農村工学会に属します。

## 10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の学会誌への掲載、肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

## 11. 応募方法および応募先

学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/format/>）より、投稿票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mailアドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称（固有名称）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

## 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2022年7月から2024年6月までの編集体制と編集事務局

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering：PAWEES）では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」（略称：PAWE）を発行しています。なお、Paddy and Water Environment 誌の略称は、これまでPWEとしておりましたが、2022年11月の国際集会以降はPAWEに統一されることとなりました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2021年のインパクトファクター（IF）は1.554と過去最高の値になり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理）
- ② 排水（排水管理、排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良、土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発、水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節、地下水涵養など）
- ⑥ 生態系の保全（水生、陸生動物植物の生態系）
- ⑦ 水利施設と減災・防災（施設管理、地すべり、気候変動、災害防止など）

- ⑧ 地域計画（農村計画、土地利用計画など）
- ⑨ バイオ環境システム（水田農業と水環境、土壌環境、気象環境）
- ⑩ 水田の多目的利用（田畑転換、施設園芸）
- ⑪ 農業政策（農村振興、条件不利地の支援策など）

また、世界11カ国からEditor（20名）を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

2022年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

## 編集体制

## ・ Editor-in-Chief

Dr. Toshiaki IIDA

Faculty of Agriculture, Iwate University, Japan

## ・ Associate Editors-in-Chief

Dr. Seong-Joon Kim

Konkuk University, Korea

Dr. Yu-Pin Lin

National Taiwan University, Taiwan, ROC

## ・ Editors 13カ国から20名

## ・ Editorial Advisors 30名

## ・ Chief Managing Editor

**Dr. Chihhao FAN**

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,  
National Taiwan University, Taiwan, ROC

• **Managing Editors**

**Dr. Eunmi HONG**

School of Natural Resources and Environmental Science,  
Kangwon National University, Korea

**Dr. Taeil JANG**

Department of Rural Construction Engineering, Chonbuk  
National University, Korea

**Dr. Kuo-Wei LIAO**

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,  
National Taiwan University, Taiwan, ROC

**Dr. Tasuku KATO**

Institute of Agriculture, Tokyo University of Agriculture  
and Technology, Japan

**Dr. Katsuyuki SHIMIZU**

Faculty of Agriculture, Tottori University, Japan

**Dr. Soji SHINDO**

Rural Development Division, Japan International  
Research Center for Agricultural Sciences(JIRCAS),  
Japan

編集事務局 (2024年6月まで台湾担当)

**Dr. Chihhao FAN**

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,  
National Taiwan University, Taiwan, ROC  
No. 1, Section 4, Roosevelt Road, Taipei, Taiwan,  
ROC

TEL : +886-2-3366-3476

FAX : +886-2-2363-5854

E-mail : chfan@ntu.edu.tw

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員で PAWE 誌の購読者であること。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年 4 回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 9,900 円 (税込)

学生会員 (院生含む) 4,950 円 (税込)

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016 年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局 ([suido@jsidre.or.jp](mailto:suido@jsidre.or.jp)) まで会員番号を明記の上、お申し込みください。

令和 5 年度東北支部総会・第 64 回東北支部研究発表会ならびに  
第 54 回東北支部研修会・第 43 回地方講習会の開催 (第 1 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 期 日 令和 5 年 11 月 9 日 (木)、10 日 (金)

(2) 11 月 10 日

2. プログラム概要 (案)

支部研修会・地方講習会 10 : 00~15 : 30

(1) 11 月 9 日

会場 : ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング

① 支部総会・研究発表会 9 : 30~17 : 00

会場 : いわて県民情報交流センター アイーナ

〒 020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通 1-7-1

TEL : 019-606-1717

② 情報交換会 18 : 00~20 : 00

会場 : ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング

〒 020-0033 岩手県盛岡市盛岡駅前北通

2-27

TEL : 019-625-1211

3. 問合せ先

岩手県農林水産部農村建設課 (藤川)

〒 023-8570 岩手県盛岡市内丸 10-1

TEL : 019-629-5684

E-mail : AF0007@pref.iwate.jp

4. その他

詳細が決まり次第、本誌および東北支部ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/tohoku/>) で随時お知らせします。

第 78 回中国四国支部講演会ならびに第 47 回地方講習会の開催 (第 2 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



中国四国支部講演会および地方講習会を下記のとおり開催します。

日 時 : 令和 5 年 10 月 12 日 (木) 10 : 00~17 : 00

会 場 : 広島 YMCA 国際文化センター

(本館 国際文化ホール)

〒 730-8523 広島市中区八丁堀 7-11

1. 日 程

(1) 支部講演会

TEL : 082-227-6816

プログラム :

受付開始 9:30~  
 開会式 10:00~10:15(本館 国際文化ホール)  
 支部表彰式 10:15~10:25(本館 国際文化ホール)  
 特別講演 10:40~12:00(本館 国際文化ホール)  
 「障害者の就労におけるインクルージョンとその動向」

久留米大学大学院心理学研究科  
 准教授 佐藤剛介

<昼食 12:00~13:00>  
 一般講演 13:00~17:00  
 (本館 国際文化ホール等)

## (2) 情報交換会

日時: 令和5年10月12日(木) 18:00~20:00  
 会場: ひろしま国際ホテル

## (3) 地方講習会

日時: 令和5年10月13日(金) 9:00~12:00  
 会場: 広島 YMCA 国際文化センター  
 (本館 国際文化ホール)

プログラム :

受付開始 8:30~  
 講習会 9:00~11:40  
 ①食料・農業・農村基本政策の見直しについて  
 ②「自動走行農機等に対応した農地整備の手引き」  
 の一部改訂について  
 ③広島県の「ため池の総合対策」について  
 閉会式 11:45~12:00

\* 地方講習会は、一部の講習がWeb講演になる可能性があります。あらかじめご了承ください。

\* 詳細については、中国四国支部ホームページにも掲載しています。講演会での発表を希望される方はホームページに掲載される情報にご留意ください。

中国四国支部ホームページ:

<http://www.jsidre.or.jp/tyugoku/>



## 2. 講演申込み方法

### (1) 講演原稿

講演原稿は、図、表、写真などを含めて1課題3ページ以内とします。

投稿者は、中国四国支部ホームページに掲載の「講演原稿の書き方」に従って原稿を作成し、原稿をPDFにしたファイルと投稿票をE-mailにより下記の講演会発表原稿提出窓口までお送りください。投稿票ファイルは中国四国支部ホームページからダウンロードしてください。その際、E-mailの件名は「中国四国支部講演会投稿」としてください。受領確認はE-mailで返信を行います。なお、発表時間や発表方法などについての連絡をとる場合

がありますので、講演者(○印)の方は必ず連絡先メールアドレスをお書きください。

### (2) 講演資格

発表者のうち、少なくとも1名は学会員であることが必要です。

### (3) 講演方法

発表形態は口頭発表です。個人発表とし、講演補助としてプロジェクター、パソコン、パワーポイントを準備します。

### (4) 講演時間

1課題につき15分程度です。

### (5) 講演要旨集

申込みがあったすべての原稿を講演要旨集に収録します。なお、印刷はモノクロとなります。

### (6) 原稿の締切

令和5年8月18日(金) 必着

### (7) 講演会発表原稿提出窓口・問合せ先

高知大学農林海洋科学部 井原 賢  
 〒783-8502 高知県南国市物部乙200  
 TEL: 088-864-5163

E-mail: 2022nn.chugoku.shikoku@gmail.com

※参加申込み窓口と講演原稿提出窓口を別にしていただきますので、ご注意ください。

## 3. 参加申込み方法

### (1) 参加申込書

参加申込みについては、中国四国支部ホームページに掲載の「参加申込書」をダウンロードし、所属機関ごとにまとめて、参加申込み窓口までE-mailでお送りください。

その際、E-mailの件名は「【所属機関名】農業農村工学会支部講演会申込み」としてください。

### (2) 申込み締切日

令和5年8月25日(金)

※講演者の原稿の締切りは8月18日(金)です。締切日が異なりますので、ご注意ください。

### (3) 参加費

- ・講演会 参加費【一般:2,000円, 学生:無料】
- ・情報交換会 参加費【6,000円】
- ・地方講習会 参加費【一般:2,000円, 学生:無料】

### (4) 参加費の納入方法

原則として、参加申込みに併せて次の銀行口座に全額前納でお振込みをお願いします。

振込手数料については、振込人負担をお願いします。

また、振込み元がわかるように、所属・氏名等は必ずご記入ください。

なお、振込み後の参加費の返金については、原則応じられませんのでご注意ください。

【振込口座】

- 銀行名：広島銀行 県庁支店
- 店番号：008
- 口座番号：(普通) 3081338
- 名義人：農業農村工学会 中国四国支部 広島県実行委員会 事務局会計担当 大田英治

- (5) 支部講演会、情報交換会、地方講習会の参加申込み窓口・問合せ先  
広島県農林水産局農業基盤課 増原・門屋・大田

〒730-8511 広島県広島市中区基町10-52  
TEL：082-513-3649 FAX：082-223-3566  
E-mail：nounouki@pref.hiroshima.lg.jp

※参加申込み窓口と講演原稿提出窓口を別にしていただきますので、ご注意ください。

(6) 昼食・宿泊案内

昼食・宿泊の斡旋・手配等はいませんので、各自でのご対応をお願いいたします。

令和5年度九州沖縄支部大会(第104回講演会・講習会・シンポジウム・現地見学会)の開催(第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 日 時

令和5年10月26日(木)

9:00~17:00 開会式・支部賞授賞式・シンポジウム・講習会・講演会

令和5年10月27日(金)

9:00~12:30 現地見学会

2. 会 場

- (1) 開会式・支部賞授賞式・シンポジウム・講演会・講習会  
沖縄県市町村自治会館 (http://okinawa-jichikaikan.com)  
〒900-0029 沖縄県那覇市旭町116-37  
TEL：098-862-8181 FAX：098-862-8183  
(沖縄都市モノレール：旭橋駅より徒歩5分)
- (2) 情報交換会は開催いたしません。

3. プログラム(予定)

- (1) 10月26日(木) 開会式・支部賞授賞式・シンポジウム・講習会・講演会
  - ① 8:00~ 受付(2階ホール前ロビー)
  - ② 9:00~ 9:30 開会式(2階ホール)
  - ③ 9:30~10:00 支部賞授賞式(2階ホール)
  - ④ 10:00~11:10 シンポジウム(2階ホール)  
「(仮題)産学連携で取り組む農地防災事業」  
講師：(株)技術開発コンサルタント 山崎拓治  
佐賀大学農学部 原口智和
  - ⑤ 11:10~12:00 講習会(2階ホール)  
「食料・農業・農村基本政策の見直しについて」  
講師：農林水産省農村振興局整備部設計課 鷹箸俊孝
  - ⑥ 12:00~15:00 講演会【ポスターセッション】  
(4階第4会議室)
  - ⑦ 13:00~17:00 講演会【オーラルセッション】  
第1会場(2階ホール)、第2会場(2階202・203会議室)、第3会場(4階第2・3会議室)、第4会場(4階第5・6会議室)
- (2) 10月27日(金) 現地見学会

① 8:00~8:20 受付

② 8:30~12:30 現地見学会

集合時間：8:00

集合場所：県民広場(沖縄県庁正面近く)

予定コース：出発地(県民広場)→米須地下ダム(国営かんがい排水事業)→糸満市米須自治会→琉球ガラス村(休憩)→道の駅いとまん→那覇空港→県民広場

※途中、昼食なし、休憩あり。現場状況等により見学会が変わることがあります。また、交通事情により終了時間が前後することがあります。

※復路について、那覇空港および県民広場にて下車が可能です。

4. 参加費

	講演会 (10/26)	講習会 (10/26)	現地見学会 (10/27)	昼食 (10/26)
一般料金(会員)	4,000円	2,000円	3,000円	1,500円※
一般料金(非会員)	5,000円	3,000円	4,000円	1,500円※
学生料金	2,000円	1,000円	2,000円	1,500円※

内訳

講演会、講習会、現地見学会：参加費として(事前振込)

昼食：お弁当代として(※当日、受付にて現金でお支払いをお願いします)

5. 講演会(オーラル・ポスターセッション)の発表申込み・発表方法

令和5年度支部大会の運営および参加申込受付は、大会運営事務局(沖縄県)が担当し、講演会の発表申込受付とプログラム編集は、九州沖縄支部事務局(佐賀大学)が担当します。

講演会の発表については、下記よりお申し込みください。

なお、オーラルセッションとポスターセッションの投稿方法は下記のとおり統一されています。また、学生会員(学部生・研究生・大学院修士)はオーラルセッションではなく、ポスターセッションにお申し込みください。

(1) 投稿方法

「講演要旨(PDF形式)」と「講演会投稿票(MS-Excel

形式)」の各ファイルを E-mail に添付してご投稿ください。E-mail の件名には「2023 九州沖縄支部大会（沖縄）」と記載してください。

なお、講演要旨と講演会投稿票は、10.の支部ホームページからダウンロードしてご利用ください。

(2) 講演要旨・講演会投稿票の書き方

10.の支部ホームページから、「講演会投稿票・講演要旨の書き方及び電子投稿要領」をダウンロードし、ご参照ください。

また、過去 15 年以内に価値ある業績等を通算 3 回以上口頭で発表した会員に授与する研鑽賞は自己申告制ですので、受賞対象者になると思われる方は講演会投稿票に必要事項を記入して申告してください。

(3) 投稿先（九州沖縄支部事務局）

E-mail : kooriyam@cc.saga-u.ac.jp

(佐賀大学農学部 郡山益実)

(4) 投稿締切

令和 5 年 8 月 31 日（木）

(5) オーラルセッションの発表方法

1 課題当たりの発表時間は質問・交代時間を含めて 12~15 分程度です。発表用機材としてパソコン（OS : Windows11, ソフト : MS-PowerPoint）とプロジェクターを大会運営事務局で用意します。OHP・スライド用機材は用意することができませんのでご了承ください。

なお、令和 5 年度は講演要旨集の印刷配布は行いません。10.の支部ホームページに掲載しますのでご確認ください。

(6) ポスターセッションの発表方法

原則として学生会員（学部生・研究生・大学院修士）を対象に募集します。ポスター賞を若干名に授与します。事前のポスター送付は不要です。

なお、ポスターセッションは 15 時終了となる予定です。12 時~13 時にコアタイムを設けており、当該時間において発表者は必ずポスターの前に滞在し、ポスターセッションをお願いします。

① 用紙および枚数

1 課題当たり A0（縦）版 1 枚以内

② ポスターの掲示

10 月 26 日（木）11 時までに、発表者の責任で掲示用パネルにポスターを掲示してください。掲示用パネルのサイズは（高さ）2.10 m ×（幅）1.80 m となる予定です。

6. 支部大会参加申込方法

(1) 参加申込み

本大会の参加申込受付については、(株)日本旅行沖縄を通じて行います。(2)の大会参加申込み URL からアクセスし、リンク先からお申し込みください。なお、講

演会での発表希望者も参加申込みが必要です。

(2) 申込み先

大会参加申込み URL :

<https://va.apollon.nta.co.jp/jsidrekyu104/>

【注意】

参加申込みに当たり申込み者情報および参加者情報を登録いただく必要がありますので、あらかじめご了承ください。登録の際に提供いただく個人情報は、厳重な管理のもと本支部大会のみに使用させていただきます。また、登録による追加費用等は一切ございません。

(3) 申込期限

令和 5 年 8 月 31 日（木）

※定員になり次第、締め切りますので、早めにお申し込みください。

(4) 参加費の納入

本大会の講演会・講習会・現地見学会等の参加費受領については、(株)日本旅行沖縄を通じて行います。参加申込み後、請求書は大会参加申込みのサイト内で確認・発行できます。ご自身で発行の上、内容を確認いただき、請求書記載の期限までにお振り込みください。なお、振込手数料はご自身でご負担ください。

領収書はご登録いただいたメールアドレスへ大会の 10 日前までにお送りいたします。参加費納入、請求書・領収書についての問合せ等は 9. **大会参加申込み・参加費納入についての問合せ先**までご連絡ください。

※振込後の参加費等の返還には応じられませんので、ご注意ください。

(5) 講習会について

講習会のテキストは、講習会に参加申込みいただいた方へのみの配布になります。

(6) 現地見学会について

保険適用の関係で、事前にお申し込みいただかない限り現地見学会には参加できません。申し込みがない方の当日参加はご対応できませんので、ご了承ください。

(7) 宿泊について

大会運営事務局では宿泊の斡旋・手配は行っておりません。宿泊施設の利用をご希望の方は、大会参加申込サイトからお申し込みください。宿泊の領収書についても、ご登録いただいた E-mail へ大会の 10 日前までにお送りいたします。

7. その他

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、開催方法および内容が変更となる場合があります。

8. 大会運営事務局

農業農村工学会九州沖縄支部大会運営事務局

(沖縄県農林水産部村づくり計画課企画管理班 担当: 謝<sup>じやほな</sup>花)

〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎 1-2-2

TEL : 098-866-2263 FAX : 098-869-0557

E-mail : jahany@pref.okinawa.lg.jp

9. 大会参加申込み・参加費納入についての問合せ先

(株)日本旅行沖縄 担当: 奥那嶺・長田

〒900-0015 沖縄県那覇市久茂地 3-21-1 國場ビルディング 2階

TEL : 098-860-9944 (代) FAX : 098-861-7956

E-mail : miceoka\_r@nta.co.jp

10. 支部ホームページ

農業農村工学会九州沖縄支部ホームページ :

<http://www.jsidre.or.jp/kyusyu/>

令和5年度応用水理研究部会現地見学会の開催

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



応用水理研究部会では、令和5年度応用水理研究部会現地見学会を下記のとおり開催いたします。応用水理の視点から水利施設を見つめ直す良い機会になりますので、皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

1. 日時

2023年9月1日(金) 9:00~16:00

2. 目的地

石手川ダム、龍沢泉(重信川湧水群)、霞堤、柳原泉(重信川湧水群)、佐古ダム

3. 参加費 未定(2,000円程度、バス代)

4. 行程(案)

9:00 愛媛大学城北キャンパス南加記念ホール前

9:30~10:30 石手川ダム見学

11:00~11:40 龍沢泉(重信川湧水群)、霞堤

11:50~12:20 柳原泉(重信川湧水群)

12:35~13:45 昼食休憩

14:00~15:00 佐古ダム

15:40 JR松山駅

16:00 松山空港

5. 参加申込み

6. 問合せ先まで、所属・氏名・メールアドレス・電話番号を明記して、E-mailにてお申し込みください。申込みの締切り日は設けませんが、バス定員の都合によりお断りすることがございますので、出来る限り早い申込みをお願いいたします。

6. 問合せ先

〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学大学院農学生命科学研究科 高木強治

TEL : 03-5841-5346

E-mail : kyo-t@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

2023年度土壌物理学会大会の開催

1. 主催 土壌物理学会

山下信義

協賛 農業農村工学会ほか

((国研)産業技術総合研究所エネルギー・環境領域)

2. 日時 10月21日(土) 9:30~16:40 (8:50受付開始)

ポスターセッション/企業展示

3. 場所 明治大学生田キャンパス

(対面およびZoomによるライブ配信)

4. 参加費

無料(印刷版要旨集希望者は要旨集代として1,000円)

5. プログラム

第65回シンポジウム「農業が直面する環境汚染」

(1) 水銀による環境汚染(仮題)

丸本幸治(国立水俣病総合研究センター)

(2) 農業環境におけるPFASについて「Living with forever chemicals」

殷 熙洙

((国研)農研機構基盤技術研究本部高度分析研究センター)

(3) ペルフルオロアルキル化合物(PFAS)による環境汚染と除去技術について

6. 各種申込期間

ポスター発表登録: 2023年8月14日(月)~9月18日(月)

企業展示申込み: 2023年8月14日(月)~9月18日(月)

参加申込み: 2023年8月14日(月)~10月9日(月)

申込方法: 土壌物理学会ホームページ上で参加登録をしてください。

※詳細は、下記土壌物理学会ホームページをご覧ください。

7. 問合せ先

土壌物理学会事務局 西脇淳子(東京農工大学大学院農学研究院)

E-mail : spmt2023@ml.affrc.go.jp

土壌物理学会ホームページ <https://js-soilphysics.com/conf>

〒214-8571 神奈川県川崎市多摩区東三田1-1-1 明治大学農学部気付

## 第66回粘土科学討論会の開催

- |   |   |
|---|---|
| <p>1. 主催 (一社)日本粘土学会<br/>後援 農業農村工学会ほか</p> <p>2. 開催日 2023年9月12日(火)～13日(水)</p> <p>3. 会場 戦災復興記念館<br/>〒980-0804 宮城県仙台市青葉区大町2-12-1<br/>(ハイブリッド開催)</p> | <p>4. 問合せ先<br/>(一社)日本粘土学会事務局<br/>〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター</p> <p>5. その他<br/>詳細は、第66回粘土科学討論会のホームページ (<a href="http://www.cssj2.org/event/annual_meeting/">http://www.cssj2.org/event/annual_meeting/</a>) をご覧ください。</p> |
|---|---|

## 第15回「梶木賞」論文の募集

全国農村振興技術連盟では、将来の農業農村整備を担う若手技術者の皆様から、農村振興に対する自らの経験を踏まえた提言・抱負をまとめた、第15回「梶木賞」論文を募集いたします。

1. 主催 全国農村振興技術連盟  
後援 農業農村工学会
2. 応募テーマ  
農業・農村の直面している課題とその対応策  
(テーマを踏まえ論文の内容にふさわしいタイトルを決めてください)
3. 応募資格  
全国農村振興技術連盟会員ならびに農業土木系の学科に在籍している学生

4. 原稿  
3,600字程度(上限3,800字)  
写真・図の挿入は自由、提出原稿は横書き
5. 応募締切 2023年10月27日(金)
6. 応募先・問合せ先  
全国農村振興技術連盟 企画部  
〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館内  
TEL: 03-3434-5407 FAX: 03-3578-7176  
E-mail: kajiki@n-renmei.jp
7. その他  
詳細は、全国農村振興技術連盟 (<https://www.n-renmei.jp/>) のホームページをご覧ください。

## 第26回(2024年)日本水大賞の募集

1. 目的  
日本水大賞は、21世紀の日本のみならず地球全体を視野に入れて、水循環系の健全化を目指し、美しい水が紡ぎ出す自然の豊かさの中にも水災害に対して強靱な国土と社会の実現に寄与することを目的としています。
2. 対象範囲
  - (1) 対象となる活動分野  
水循環系の健全化や水災害に対する安全性の向上に寄与すると考えられる活動で、水防災、水資源、水環境、水文化、復興のような分野における諸活動(研究、技術開発を含む)を対象とします。
  - (2) 対象となる活動主体  
水循環系の健全化に寄与すると考えられる活動で、学校、企業、団体、個人、行政の方々が実施する諸活動を対象とします。なお、個人、法人、グループの種別、年齢、職業、性別、国籍等を問いません。
3. 日本水大賞の内容  
対象となる活動の中から、優れたものに対して以下の賞が授与され、広く公表されます。なお、副賞は受賞活動をさらに継続・発展していただくよう授与されます。

大賞【グランプリ】  
大臣賞  
【国土交通大臣賞】【環境大臣賞】  
【農林水産大臣賞】【文部科学大臣賞】【経済産業大臣賞】  
ほか

4. 選定の方法  
日本水大賞委員会のもとに、上記の賞を選考するために審査部会を設置し、表彰対象となる活動が審査され、最終的には日本水大賞委員会で決定されます。
5. 募集期間  
2023年7月7日(金)～10月31日(火)(郵送の場合は当日消印有効)
6. 応募方法  
応募用紙(4枚)に必要事項をご記入の上、応募用紙および添付資料を送付または持参してください。応募用紙および添付資料が電子データの場合は、E-mailでも応募を受け付けます(メール送信後、必ず確認の電話をしてください)。  
応募方法の詳細はホームページを参照してください。
7. 主催等
  - (1) 主催 日本水大賞委員会

名誉総裁 秋篠宮皇嗣殿下  
委員長 毛利 衛 (日本科学未来館名誉館長)

国土交通省

- (2) 後援 農業農村工学会ほか
- (3) 協賛 「川の日」実行委員会ほか

8. 送付先・問合せ先

日本水大賞委員会事務局  
(公社)日本河川協会

〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-6-5 麹町 E.C.K ビル 3階

TEL : 03-3238-9771 FAX : 03-3288-2426

E-mail : taisyo@japanriver.or.jp

担当 : 本田 (平日 9 : 15 ~ 17 : 30)

9. その他

詳細は、日本水大賞のホームページ (<http://www.japanriver.or.jp/taisyo/>) をご覧ください。

農業農村工学会事務局 夏季休業のお知らせ

農業農村工学会事務局は、8月14日(月)～16日(水)を夏季休業とさせていただきます。

皆様にはご不便をおかけしますが、何卒ご了承くださいませようお願い申し上げます。上記期間中にお寄せいただいたご注文・お問い合わせには、17日(木)から順次対応いたします。

会員専用サイトをご活用ください



農業農村工学会では、学会ホームページに会員専用サイトを設けています。会員専用サイトでは、最近の学会誌、テーマ別報文、過去の講座・小講座、写真等デジタルアーカイブス、などを掲載しており、内容は定期的に更新していきます。是非ご利用ください。

※会員専用サイトで会員登録情報の更新ができます。

学会ホームページのトップページより、会員専用サイトをクリック

